

第6学年社会科学学習指導案

平成29年10月11日

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々

2 単元目標

江戸時代から明治維新期における日本の姿について資料を活用して調べ、新政府が行った政策による社会の変化とそれらの政策に込めた政府のねらいが分かり、明治維新期の日本の変化を政策から考えることで、これからの日本のあり方について、根拠を明確にした自分の考えを表現することができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の目標(1)「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てようとする。」を受けて、内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」を考えるようにする。その中のキ「黒船来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かる。」ク「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。」の学習を通して、明治政府の政策の意図やどのように近代化を進めたのかを考えるようにする。

本単元では、大久保利通や木戸孝允、西郷隆盛らが貿易に反対して外国と戦ったが、武力では勝てないと判断し、新しい政府をつくる運動を始めたことなどを問題解決的に学習する。また、明治政府が主導で行った諸改革やそれに対する国民の動きなどから、当時の人々の思いやめざしたものを考える学習にする。よりよい国をめざして行動した人々の思いや願いに気づかせたいと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、社会科が好きで、進んで歴史の本を選んで読む児童が多い。1学期に行った社会科アンケートでは、「社会科の学習が好きですか」「写真や資料を見て分かったことや疑問を見つけることが好きですか」という問いに対して、多くの児童が肯定的な回答をしていた。主体的に学習に向かい、自分のもつ疑問を解決していこうとする習慣が身につけてきている。これまでに社会科の歴史学習では縄文時代から江戸時代までの単元を行ってきた。どの単元も出来事や人物の功績を押さえるだけではなく、なぜそのような出来事が起こったのか時代の背景を捉えながら学習してきた。しかし、出来事と出来事を関連付けて説明したり、当時の人々がどのような思いや願いを抱いていたのか深く思考をめぐらしたりすることが苦手な児童も多い。そこで、本単元では、政府の動きや国民の動きを調べるだけでなく、政府の政策の意図や国民の思いに着目し、話し合う活動を取り入れながら、時代の流れをまとめていく。どんな人がどのような思いで行動していったのかを考えられるように支援していきたい。

(3) 指導観

学習にあたっては、単元をペリー来航から倒幕までと、明治政府の改革から大日本帝国憲法発布までの2つに分けてまとめていく。主な出来事や人物の功績を押さえ、時代の流れや変化を押さえられるように進めていきたい。また、学習問題に対して予想を立て、事実と予想を比較し、検証することで学びを深めていきたい。

まず、学習習問題づくりのために江戸時代と明治時代の国民の生活を表した絵を提示する。わずかに20から30年の間にまちの様子や政治、外国との関係の変化に気付かせ、「どうしてここまでの変化が短期間のうちに起こったのか」「誰が中心となって国づくりを進めたのか」という問いを児童自ら見出せるようにするとともに、次時以降の倒幕運動や明治政府の改革の意欲づけを行う。

次に、学習問題の解決に向け、江戸幕府が倒された理由や富国強兵の国づくりを目指していく理由、それに対する国民の思いについて学習していく。倒幕後、自分ならどんな国を目指し、どのような仕組みをつくっていくのか予想を立て、自らの考えと事実とを比較しながら捉えられるようにしたい。また、ここでは多くの事象や人物を抑えなければならないため、出来事と出来事を関連付けて説明する場を意図的に設定したり、人物関係図をかいたりしながら、時代のつながりをまとめられるよう支援していきたい。

まとめとして政府の行った政策を今後も続けていくべきかどうか話し合う。「地租改正」「殖産興業」「徴兵令」という富国強兵のスローガンのもと行った政府の政策と、それに対する国民の思いを踏まえて考えられるようにする。本時では、政府と国民の両方の立場からその取り組みを捉え、お互いの思いや願いを踏まえながら話し合う。明治政府の行った政策に対して自らの考えをもち、評価していくことができるよう支援したい。当時の出来事を押さえるだけではなく、その出来事が起こった背景や目的、そこに込められた願いを考えることで、より多角的に物事を捉えることができ、深い思考につながるものと考え。グループやクラス全体に伝える場面をつくることで、研究の視点(3)「根拠をもって自分の言葉で伝え合い、お互いの考えを深める場の充実」を目指したいと考えている。この学習を通して、平和を願う日本人として進んで社会に関わっていくような素地を養っていきたい。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
① 黒船来航、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布とそれに関わる人物の働きに関心を持ち、意欲的に調べている。 ② 歴史を学ぶ意味やよりよい社会の在り方について考えようとしている。	① 幕末、明治維新、維新後の日本の状況や政策、それに関わる人物の働きや願いを考え、追究している。 ② 社会の変化が大きい日本の在り方について自分の考えを言語などで適切に表現している。	① 地図や年表、その他の資料を活用して、幕末、明治維新、維新後の日本の状況や政策、それに関わる人物の働きや願いについて必要な情報を集め、読み取っている。	① 我が国が欧米の文化を取り入れつつ、諸政策を行い、近代化を進めたことや、それに関わる人物の働きや願いを理解している。

6 本時の学習（9／9）

(1) 目標

明治政府が富国強兵の政策を進めたねらいと、さらには国民がそれをどのように受け止めていたのか、資料をもとに自分の考えをもち、表現することができる。【思考・判断・表現】

(2) 授業仮説

明治政府の立場で様々な改革を見てきているが、国民の立場という異なる視点からその改革を見ることで、明治政府の政策のねらいを一層深く考えることができるだろう。

(3) 準備

前時までの掲示物、「地租改正」「殖産興業」「徴兵令」の絵

(4) 学習過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援と評価◎ (評価方法)
つかむ	1 前時の学習をふり返り、本時の課題を確認する。	○ 明治政府の行った「地租改正」、「殖産興業」、「徴兵令」とはどのような政策でしたか。 ・「地租改正」は、地主が土地の価格の3%を現金で納めるものです。 ・「殖産興業」は、外国から技術や機械を取り入れたり、官営工場をつくらせたりして、工業を発展させるものです。 ・「徴兵令」は、20才以上の男子に3年間軍隊に入ることを義務付けたものです。	○教室掲示で前時までの学習をふり返られるようにしておく。
	明治政府はこの先も富国強兵の政策を続ける方がいいのだろうか		
調べる	2 明治政府はこの先も富国強兵の政策を続ける方がいいのか、やめた方がいいのか考える。 ・一人学び ・ペア	○ 明治政府はこの先も富国強兵の政策を続ける方がいいのだろうか。 ・続けた方がいいと思います。日本の国を守るにはもっと国を豊かにして、軍を強くしないといけないからです。 ・やめた方がいいと思います。「地租改正」は負担が重く、「徴兵令」は命をかけないといけないからです。	○教科書や資料集、前時までに学習した資料などを活用して、根拠をもとに考えられるようにする。 ○ペアでの伝え合いを行い、自分の考えと相手の考えを比較させる。

まとめる	<p>3 クラス全員で話し合おう。</p>	<p>○ 明治政府はこの先も富国強兵の政策を続ける方がいいのだろうか。クラス全員で話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続けた方がいいと思います。この政策をやめてしまうと、貧しくて弱い国にもどってしまいます。そうすると外国に攻められてしまいます。 ・続けた方がいいと思います。ヨーロッパやアメリカに追いつくためには、富国強兵の3つの政策は必要です。国の収入を安定させ、工業をさかんにし、強い軍隊をつくれれば、外国に負けない国になるからです。 ・やめた方がいいと思います。外国に攻められるのは嫌だけど、実際、今、生活が苦しい人が多くいるからです。 ・やめた方がいいと思います。政府が未来のことを考えているのは分かるけど、苦しい思いをしているのは国民です。地租改正の負担は江戸時代より重し、殖産興業は多くの工女が犠牲になっています。徴兵令も命がけで、国民は辛いと思うからです。 ・今は辛いかもしれないけど、高い税金や工業の発展は、将来必ず国民に返ってくると思います。だから、続けていくべきだと思います。 	<p>○教科書や資料集、前時までに学習した資料などを活用して、根拠をもとに考えられるようにする。</p> <p>○ペアでの伝え合いを行い、自分の考えと相手の考えを比較させる。</p> <p>○続ける側とやめる側が分かるよう、机を向かい合せにして話し合う。</p> <p>○途中で立場が変わってもよいことを伝える。</p> <p>○理由をつけて自分の考えが伝えられるようにする。また、似ている考えの児童に発言を促し、考えが深まるようにする。</p>
	<p>4 学習をふり返る。</p>	<p>○ 友だちの考えを踏まえて、もう一度考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続けるべきだと思うけど、国民の思いも考えて政策を行っていく必要があると感じました。 ・政府が強引に政策を進めるのではなく、国民の意見を聞きながら、協力して国をつくっていくことが大切だと思います。 	<p>◎政府と国民の思いを踏まえて富国強兵を評価し、自分の考えをまとめている。(発表、ノート)</p>